

月報	日本キリスト改革派 横浜中央教会	5月号 2011年5月8日
----	---------------------	------------------

## 今、思う事

C . K

主に選ばれ、キリネト者とされた者の主の日の礼拝（公同礼拝）は、「喜びであり、義務だ」という事を若い時に聞きました。ある方が長く教会に見えなかった事がある牧師さんと話していた時に聞いた一言です。当時は、何を言っているのかな～つていう程度にしか聞いていなかったが、横浜西口教会が誕生した辺りから切実に実感出来てきました。年のせいばかりでは無い様に思えます。「足跡」と言う詩にある場面と重なり思い起こされます。

また、今、思う事は、主の恵みに抛りキリスト者とされた者が今もって、世と同じ基準に従い歩み互いに争うのか。礼拝を終え会堂を後にしたら世の友と同じ基準に立ち生活を為るのかと言う事です。キリスト者だからと言って、世から隔絶した生活は、主の宣教命令を無にするだけで無く、主の主権を侵す事に成りません。主は、唯一で在り、自存の存在であります。我々人間は、言うまでも無くこの創造主・主に無から、主の御名を崇め・賛美する者として造られました。

主日の公同礼拝は、当然の事ながら、『招きの詞』から始まる様に礼拝をささげるお方は、天地万物を造り今も罪深い我々に主イエス様による贖いを通し救いを与えて下さった三位一体の神様に捧げるのです。当然の事ながら、礼拝の中心は、信者や奏楽者、司会の長老、説教をする牧師で無く、主イエス・キリスト様です。礼拝の途中でこの事以外に賛美、称賛を表す行為は不適切です。ある長老が、申しました様に礼拝の中で拍手をするのは良く考えてする方がいいと思います。

主は、私達に礼拝=を捧げる事を許して下さり、旧約の時代に於いては事細かに人が自分の判断で神様を礼拝し、罪を重ねる事が無い様に導かれ、主の御心に適う様に礼拝を献げる事を要求しておられます。

私達の礼拝は、毎週礼拝の中で行われる「信仰告白」、今は「キリスト教・子ども教理問答」を用いています。この問36に在る様に『礼拝に招いて下さる神様を拝むことです』とある様に『霊と真理をもってしなければならない』とのイエス様のお言葉を第一に考え、基づいて行う努力をしています。

人は、主により様々な能力を待った者として存在させられています。が、しかし、礼拝に於いては、問36に在る様に唯一の神様のみを御旨に適う様に祈り、行う努力が必要では無いかと。

## 今、思う事 2

世の中には様々な事柄が在り、様々の能力を待った人がいます。与えられた人と言うのが相応しいでしょう。また様々の立場にある人が居ます。争い、妬み、その他多くの軋轢を生んで居ます。これ等を見ていると、自分を他より上に置き、教条化し、神様から与えられたイエス様の教え、「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』」を呪文の様に唱え、神様から与えられた頭を使わず安直に歩みがちである自分に気付きます。祈り、考え、御霊の導かれる事を日々願っています。

## 最近思わされること

H . S

被災地の報道を見聞きするにつけ、最近思わされることは、私を含めほとんどの人達が、こういう事態の時ばにわかボランティア精神”が芽生え、「被災地のために何か出来ないか」と思い巡らし、お金や物資や自分の身を捧げようとしています。

もちろんそのような精神は尊いですが、「では普段の生活はどうなのか」ということが常に問われてくると思います。つまりは、日頃、すぐ近くにいる隣人たちに心を配り、痛んでいる人たちのために力を尽くそうとしているか……。それは家族であり、職場・学校の、そして地域の隣人たちに対してだと思えます。

そのような日頃の身近な隣人たちへの祈り、愛の配慮、そして具体的行動の延長上に今回のような被災地の方々への支援があると思っています。なぜなら、日頃の積み重ねの無い“にわかボランティア精神”は、恐らく事態のほとぼりが冷めれば薄れて行ってしまうものだろうと考えるからです。

阪神・大震災の「それ、」は、自分を顧みるに如実に語っていると感じています。そのことを自戒しながら、日々の生活を過ごしていきたいと思っています。

## 「私たちの信仰の原点・なぜ改革派教会なのか」を読んで

N . S

私は、今まで「宗教改革」を「聖書のみ・信仰のみ・恵みのみ」(聖書の権威・信仰義人・万人祭司)という教理的な改革(神様のみ言葉への立ち返り)として理解してきたように思います。でも、教理面だけの改革ではなく司教制から長老制に教会政治の形も改革されたことを改めて教えられました。

プロテスタントの諸教派も、内容的には「使徒信条・ニカヤ信条・カルケドン信条・アタナシウス信条」(キリストの神性・キリストの二性一人格・三位一体)という基本的な教理をもっていると思います。でも改革派教会の特徴は、信条教会であり長老主義教会であることだと思えます。「創立宣言」の主張の第二囀の「一つ信仰告白、一つ教会政治、一つ善き生活」にもあらわれていると思います。

イエス・キリストがそして使徒たちが建てようとしていた教会のあり方に立ち返り教会を新しくするという根本姿勢を持ったのが宗教改革であり、改革派教会の原点であると理解しました。

信条教会である必要の説明もありました。「信条(聖書の教えの中から主要な教理を客観的な文章にまとめて、それを教会の信仰告白として表明することが無い場合、聖書からだけという聖書主義の立場では、聖書から自由にしかも主観的にばらばらに自分勝手な好みにまかせて教えを引き出してしまう危険性が十分ある」と書かれています。

長老主義教会については、教派によって各個教会が独立的に教会形成をするところがあったり、監督主義だったりするのに対し、「改革派教会は、教師と長老たちによる会議での決定が、教会で権威を待った決定事項とされそれによって教会がまとめられ、全体の一致が計られながら教会形成をしていく」という説明がありました。

この二つが整っているからこそ、「教会の自立性」(教会が国家から自立していること)が確立しているのだと思います。

これからも、常に宗教改革の遺産を保ちつつ、更に終末に目を向けながら、現在この地に「神様の栄光のあらわされる見える教会が具現されること」を追求し続けていく私たちでありたいと思いました。